

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100209		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷新館 東ユニット		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成31年3月10日	評価結果市町村受理日	令和元年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成31年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境で、静かに時間が流れていく感じがします。建物の周辺にはボタンや桜などの花木が植えられており、散歩をしながら花摘みやお花見が出来ます。利用者様同士で、馴染みの関係が作られ、一緒にカラオケを楽しんだり、お手伝いをしてもらいながら、ご自分の居場所ができています。また、地元で採れた新鮮な野菜を使い施設内で作っており、季節を味わっていただいたり、嗜好に合わせた温かい食事の提供に努めています。隣接のグループホームやデイサービスとの交流もあり、お互いの行事などに参加させていただいております。災害時や行方不明者などにも対応できるよう、連携体制をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな恵まれた環境の中に、有料やデイサービスにもう一つのグループホームと、同グループ全体の施設が集合している。中心市街地から離れており、通勤の不便さからか数年前からの職員不足が継続しており、さまざまな業務改善に取り組むことで対応してきているが、なかなか難しい様子が伺える。入所者はここ数年間で重度の方は特老等への移動や看取りの方もあり、全体的な介護度は軽くなってきている。食事前の口腔体操では入所者が主体的に取り組んでいたり、日中の多くの時間をデイルームで過ごし、入所者同志の話声も良く聞こえ明るい雰囲気も伺えた。今後はアクティブプログラムの充実を図ることで、残存能力の維持向上に努めていただきたい。職員不足のため、負担を感じつつもチームワーク良く取り組もうとする前向きな態度が見られるため今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に目に留まるように掲示している。 職員全体で共有し、実践につなげている。	9年前開所時に作成したものを継続しているが、身近なものとして感じることができるように、職員がキャッチコピーてきなものを作成し掲示している。毎年4月、職員の全体会議で事業計画を含めて話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉祭理の際、施設紹介をパネル展示しPRに努めている。大正琴、どじょう掬い、ウクレレ等家族、ボランティアの方の来所や、町内の保育園児との交流も毎年行っている。	町内の福祉祭には貼り絵を展示し見に出かけている。前年度は夏に夕涼み会を開催。家族同士の交流の場としたり、ボランティアの方々に芸を披露してもらったりしていた。今年度は少なくなっているが、保育園児の訪問は続いており、プレゼント交換等を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や、他事業所からの相談などもあり、思い、悩みなどを傾聴し、精神ケアにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域関係者、包括等市の関係者の参加を得て2ヶ月に1回、定期開催している。本館と合同で開催することもあり、意見交換などを行っている。行事への参加や、防災や事例検討など、会議の内容を工夫している。	家族関係者に参加を呼び掛けているが、あまり多くない。地域からは区長さんや駐在所の職員さん、包括からも参加を得て2か月に1回定期開催しており、内3回は本館と合同開催。研修、行事報告後意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議に包括事業所より参加いただき適切な意見、指導をいただいている。生活保護受給者の方もおられ、年1回の訪問や、こちらから市役所へ出向いたり、電話連絡を行い、連携をとるようにしている。	各種の申請書や、入所時の届けを出す際には市に出向いている。認定調査の際には状況を伝える等関わりがあるし、運営推進会議には毎回参加があり、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止、権利擁護、身体拘束等外部研修に参加し、外部研修を持ち帰り、定期的に内部研修を行っている。	虐待防止を含めて委員会を立ち上げ、職員会議の場で開催したり、外部研修に参加したものを内部研修に繋げるようにしている。各部屋の窓が掃出しで開放的で出入りがしやすい反面、安全面の確保が難しく、センサーマット使用者もあるため、繰り返し検討を行う必要性を感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、マットコールやセンサー使用の見直しと検討を随時行い、職員会議で話し合い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本館では、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方がおられ、市の担当者や包括支援センターなどを通じ、弁護士や司法書士の方を話をする機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の訪問や電話連絡等でも説明をしている。契約時・解約時にも利用者様・ご家族様に十分説明し、納得、理解していただいてから手続きを進めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回お便りで、居室担当者は行事や生活の様子をお知らせし、年3回施設全体の新聞を送り、面会時に近況報告等のお話をさせて貰い意見等を聞いている。お話や意見等職員間で共有し改善に努めている。	お正月とお盆の他、その間を含めて年5回は様子を伝える便りを出している。面会時や必要性がある場合は細目に電話で様子を伝え意見を聞くようにしている。耳が遠い方には電話でなくメールを利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で、何でも言い合える雰囲気づくりをしている。時として、個別の意見や相談を聞く機会を設けている。職員会議で、いろいろな意見が出るよう、提案ができるような場面作りをしている。	管理者は必要性を感じた場合は個別に面談をしているが、定期には行っていない。ユニットのリーダーを通したり常時受け入れをしているが、管理者は兼務が多い為、時間的なものも含めて中々意見が通らないことに不満を感じる職員もある。	職員の仕事に対するモチベーションが上がる様、職員個々への対応を検討いただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する時希望休を組み入れ、体調不良や急な用事等の急用に対応し、臨機応変に勤務の交代に努めている。業務内容も無理のない変更を適時行っている。育児休業後短時間勤務も希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画で、外部研修に順番で参加できる機会を設けるようにしている。職員同士で刺激あい、資格取得や勉強に意欲を持ちトライする姿もよく見られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎回グループホーム部会に参加し、同業者との関わりを大切にしている。事例検討会や発表会にも出席し、意見交換も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までに面接を行い、利用者様が困っていることや不安なこと等を聞き取り、安心してご利用できるよう努めている。入所後間もない方は、慣れられるまでの不安を解消するよう、特に声掛けを多く持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用までに面接を行い、ご家族様が困っていることや不安なことなどを聞き取り、安心してご利用できるよう努めている。面会時様々な相談、要望等に耳を傾けながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者様・ご家族様の意見・意向を聞き、当施設で支援できるか検討している。また、要介護度に応じた、他のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は、一つの大きな家族として生活できる環境作りに努め、共に和気あいあいと時間を共有できるよう努めている。お手伝いのできる方には、積極的に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行いご家族様とのふれあいの時を大切に思い、定期的に新聞、お便り等で行事をお知らせし、参加協力等を求めたりしている。受診の付き添いや外食など、ご家族と一緒に外出する機会がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの医療機関に通っていただいたり、顔見知りや馴染みの関係を続けていただくように努めている。	地元の理髪店には送り迎えを行い利用を継続している。家族関係者の面会も多く、外出して外食したり外泊を続ける方も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間だけではなく、随時、歌唱する環境を作り、役割も数人でして頂く支援をしている。自由にユニットも往来でき、皆様が関わり顔なじみの関係作りに努めて職員が代わる代わる声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、サービス事業所と連携を取り、必要に応じて家族様の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中でのちょっとした変化、表情、しぐさなど感じたこと、気づいたことを随時話し合い、本人様の意向を聞き、家族様にも意見を求めながら計画に反映できるようにしている。	入所にあたってはできるだけ情報を得るようにしているが、入所後に変化の著しい方もあり、日々気づいたことを朝夕のミーティングで伝えるようにしている。得意なことを役割りに繋げるようにしており、口腔体操の指導を積極的にする方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時にご本人・ご家族、ケアマネから情報収集している。入所後も利用者様、ご家族様から伺い、昔されてきたことをレクリエーション等で十分に活かしていただく機会を作っている。毎日の会話の中での気づきも大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りをしっかり行い、大事なことは全職員が把握できるよう申し送りノートや毎日の業務のボードに書き込み、全体の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に話し合いの機会を持つようにしている。定期的にモニタリングを行い、その他必要時にも実施し、より実践に近いものを作成するようにしている。ご家族へは、面会時や電話連絡し意見を聞くようにしている。	モニタリングは毎月チェックし、総合的な評価は6か月に1回まとめとして記入するようにしている。担当者会議への家族関係者の参加は多くはないが、事前に電話等で意向を聞くことで計画の変更に繋げている。	本人や家族関係者等、できるだけ多くの参加を得て、担当者会議が開催できるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りなどで情報共有した上で、適時担当者会議を開催し話し合いの場を持ち、定期的にモニタリングを行っている。生活記録には、利用者の言葉、行動など気づきを記入するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の意向を確認し、思い、考えなどに寄り添った対応を心掛けている。身体状態や精神状態の変化などにも気をつけ、多職種での連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや、3B体操の先生を迎えて、毎月の行事に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持ち、緊急時の支援もある。定期的な受診の際には、職員が付き添い通院している。日常の様子を伝えることで確かな指示が得られるようにしている。状況に応じて、往診もして頂いている。	以前からのかかりつけ医を継続することも協力医に変更することも可能。協力医の場合は月に1回職員が付添い受診している。協力医は、休日、夜間、緊急時にも指示が得られ看取りにも協力的。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変調時には看護師に報告し、早期対応に努めている。不在時も電話連絡が確実に取れるようになっている。居宅療養管理指導で薬剤師とも連携をとり、随時相談、指示をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、随時訪問したり家族様と連絡を取ることで経過などを把握している。退院時は、退院前カンファレンスに出向いたり、看護サマリーをいただき、情報交換しながら状況把握に努めている。病院主催の勉強会などにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最後まで、ここの事業所での生活を望まれた家族との話し合いの機会を持ちながら、主治医の支援のもと看取りに取り組んでいる。事前に職員会議等で説明を行ったり、マニュアルを作成して取り組んでいる。	重度化に向けては家族関係者と話し合いの機会を持ちながら、ここで対応できる形で取り組んでおり、今年度も1名の看取りを行っている。施設内で看取りの研修を行ったり、職員の精神面の負担を軽減するために協力体制を整えたりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、年1回消防署による心肺蘇生法の研修会を実施している。全職員が受講できるように配慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	より実践に近いものとして使えるよう、緊急連絡網を作成し直し、新館単独での避難訓練や本館との連携をとりながら、年に1回合同で訓練を実施している。食材の備蓄や、防災委員会で必要物品の点検なども行っている。	ここ独自の訓練に2つのグループホーム合同の訓練も行っている。同敷地内にグループ全体の施設が集中しており、日中夜間に於いても有事の際の協力体制は整っている。訓練に合わせて連絡網も時間に添って作成しなおしたり、設備等の点検も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を実施したり、事あるごとに取り上げ馴れ合いにならないよう気をつけている。利用者の方は、目上の方という意識を持って、職員同士声を掛けながら取り組んでいる。	接遇研修では尊厳について取り上げ意識を高めるようにしている。ケアの場面ではトイレの場所が目につきやすい所にある為、介助の際には注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や居室に案内した時など個別で対応する時などに本人の思いや意向を聞くようにしている。言葉で伝えにくい利用者様にもしっかりと声掛けを行い、表情やしぐさなどから思いこを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの内容によっては、出来る出来ないがあるが、なるべく皆さんを誘い行っている。隣のユニットからの参加もあり、交流が図られている。歌を歌うと普段あまり言葉がない方も思う出して一緒に口ずさまれている姿が微笑ましい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室へ出向いたり、来所していただきカットや髭剃りを楽しみにしていただいている。受診時や外出時には外出着に着替えていただき、メリハリをつけるようにしている。気分転換にマニキュアを付け、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、洗ったり、お膳を拭いたり出来る方をお願いをしたりしている。おやつにホットケーキを焼いたり、盛り付けや下膳などは利用者様にしていただいている。	昼夕についてはまとめて作られた物を配膳する形。朝食はここで作る為、米をといだり味噌汁の具を切るのを手伝う方もあるが、男性の入居者が多いこともありあまり積極的ではない。以前に比べ介助者は少なく、全員で口腔体操を行い食事に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの取れた食事を提供し、食事、水分量を毎日チェックし、一人一人に合った形態で提供し、食事量が少ない方は、主治医に相談したり、水分が入りにくい方は、トロミ付きや嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、歯磨きの声かけを行い、出来ない部分のお手伝いをしている。口腔ケアが自立の利用者様に対しても見守り、確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導や声掛けなどを行っている。パットの当て方、種類など随時検討を行い、職員同士お互い声を掛けあっている。	自立の方も多くなってきているが、声がけ誘導が必要な方等個々に合わせた対応をしている。重度でオムツ使用の方は定時交換だが、オムツ講習会でより適した使い方や種類の検討を行い、不快にならないよう注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘気味な方は水分強化し、ゆっくりトイレに座っていただくようにしている。看護師に報告し、主治医の指示により下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴できるよう支援している。体調不良時は、日時を変更したり、シャワー浴や足浴、清拭などを行ったりして個々に合った支援を行うようにしている。自立の方は、見守りにて入浴していただいている。	受診が重なったりして職員体制が整わない場合は午前午後で調整をして、週2回の入浴回数を確保するようにしている。家庭浴槽の為出入りが難しい場合にはシャワー浴のケースもあるが、1対1でできるだけゆっくりは入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、帰宅願望がある利用者や寝付けない利用者にはホールに出でいただき、お茶を出したり、お話をしたり、テレビを見ていただいたり、洗濯物をたたんでいただいたり眠くなるまで一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師、看護師の指示により、一人一人確認しながら確実に服薬していただいている。服薬変更、追加時には状態観察をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒にできることや楽しんでできることを見つけ、役割としてできるよう支援している。毛糸等持ってきて頂いたり、お手玉が何回できるか披露して頂いている。折り紙や折り花など職員と一緒に作品作りに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の定期受診に出かけるくらいで、個々には中々出かけられない方もいる。近くまで歩き、車椅子を押しながら出かけられる場所に天気と相談しながら出かけることがある。ユニット別で多くの方に出かけて頂く工夫もしている。家族様の協力を頂いている。	買い物やお茶をしに出かける等、目的ごとに何班かに分かれて外出する機会を設けているが、普段は月1回の受診時が外出になっている。敷地内が広く平坦なため、天候の良い時期にはできるだけ散歩に出かけて外気に触れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食、外出支援の時は、職員見守りにて買い物の支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ年賀状や暑中見舞いなど、字の書ける方は担当職員と一緒に書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、玄関、廊下など掲示物を張り替えたり、行事に合わせ、飾りつけなどを利用者様と一緒にやっている。居室で休まれる時は、室温、日当たりなどに気を遣い、ゆっくり休んでいただける環境づくりに取り組んでいる。	敷地内は平たんで日当たりも良く明るく、施設周りには畑や花木が多く、自然に囲まれている。2つのユニットが繋がっておりデイルームを中心に行き来が自由で移動には十分な広さがある。今年度は薬液使用の加湿器を設置し、除菌乾燥に努めることでインフル予防に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で食事やおやつ時間を過ごすように気配りをして席を決めている。話がかみ合わない時は、職員が間に入り取り持つこともある。ユニット間の行き来も自由にできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビ、ラジオを置き、くつろぐ場所がある。ご家族の写真を置いたり、壁に飾りつけをしている。	家で使い慣れた物の持ち込みを勧めているが、備え付けの収納スペースが充分なこともあり、あまり多くの物が持ち込まれていない。壁に家族写真を貼ったり、テレビを置いて楽しむ方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かない様、安全に歩行できるように努めている。トイレなど分かりやすいよう貼り紙をしたりしている。外に出られた時は、見守りしながら付き添い出掛けるように努めている。		